

フラットフォーラム2007

生涯スポーツ社会に向けての条件整備 ～クラブの役割を探る～

今、何故私がクラブに？の問いに答えられますか

— スポーツをする喜びを市民に伝えよう —

設立4年目を迎えたNPO法人ふちゅうスポーツクラブ。今、改めて地域における役割を問う「フラットフォーラム」が、去る6月9日、婦中ふれあい館で開催されました。

吉崎壬卿先生が基調講演を行い、クラブの課題や問題点、更にクラブの進むべき道について、自らの体験談を交えてわかりやすくお話いただきました。その後、吉崎先生を交えて6人のパネラーによるパネルディスカッションが宮脇副理事長の司会で行われ、会員、指導者、スタッフ、プロスポーツ選手がそれぞれの想いを熱く語りました。

クラブではこのフォーラムの成果を早期に活動に結びつけ、より市民に親しまれるクラブ作りに生かしていくことにしています。

● 講師 ● 吉崎壬卿 先生(婦中町蔵島)

基調講演

ゼロベース、つまり発想を一度「ゼロ」に戻すことが大切。スポーツクラブの役割を考えると、少し距離を置いた者の意見が的を得ていることがある。会員の意見もよく聞く必要がある。

行政からの補助金がなくなっていくなかで、多くのスポーツクラブが経営の苦しさで喘いでいる。NPO法人ふちゅうスポーツクラブは既に明確にしているが「自主財源化」を急がねばならない。

今朝の朝刊にこの程設立された「さくらスポーツクラブ」の記事があった。記事には設立の目的、つまり何故クラブを立ち上げたのかが明確に示されていた。

「NPO法人ふちゅうスポーツクラブ」を概観して思うことは「クラブが何故必要なのか」という問いに明確に答え切れていない印象を持つ。本当に必要なことが明らかにされていないのではないのか。チラシに「～が求められています」という表現があるが、市民は「だから何故自分が？」という疑問を持つに至る。この疑問にはっきり答えていかなくてはならない。時には会員確保のスペシャリストも必要になる。

「スポーツを通じて健康で明るい地域づくり」を組織の目標に掲げているが、市民のニーズを聞きながらの活動は大変だと察する。人の理想の生き方は「ピンピンコロリ」つまり死ぬまで元気という生き方は、医療費の縮減を可能にする生き方でもある。総合型スポーツクラブはその一翼を担っているといっても過言ではないし、勧誘に際してはこのことを伝える必要がある。クラブを会員がゆっくり話し合える「サロン化」していくことを目指したい。スタッフ全員の経営意識を持つことが重要であり課題の共有からはじまる。

ての条件整備 ～クラブの役割を



プロフィール

富山市西部中学校校長・富山県中学校体育連盟会長
富山市体育協会総務委員長
学生時代から体操競技をはじめ、インターハイ、国体、全日本選手権大会などに数多く出場。優勝経験もある。
自ら体操クラブを立ち上げるなど後進の指導にあたる。

パネルディスカッション

設立して早4年目、これまで会員の皆さんの意見、地区住民の皆さんの意見を聞く機会があまりなかったのが現状です。今回は指導者、会員、地区住民のみなさんに参加いただきパネルディスカッションを企画いたしました。これからの運営に関わる貴重なご意見をたくさん頂きました。



スポーツと無縁であったが体の衰えを感じて80歳で入会。体力に自信が付き、クラブに感謝したい。高齢者はまず自分の身体を知り、適切な管理をした上でクラブに参加すべき。クラブはもっと積極的なPRをする必要があるし、初心者が飛びつく要素を見つけることが大切。

ヨーガ教室 脊戸柳 悦子



指導者として食べていけない富山から都会へ人材が流れていくことをくい止めたい。プロ選手がやがて指導者になり次代の子供たちを指導する循環を富山で作りたい。指導者は子供たちの可能性の芽を摘んではならない。閉鎖性を解き、あらゆるスポーツ指導にプロ指導者を受け入れる開放感が欲しい。

プロサッカー選手 長谷川 太一



はじめてクラブに対する客観的な評価をいただいた。豊島さんや脊戸柳さんの言葉に感激した。まさに私が求めていたクラブの姿がそこにあるように思う。クラブは途上にあり失敗もあったが、やってきたことは間違いではないと確信した。長谷川さんの主張は理解できる。プロあるいはプロスポーツ経験者が活躍できる場・環境をクラブとしてもつらねばならないと思っている。

クラブマネージャー 中谷 忠義

自分達で仲間を増やす気持ちが必要なければ教室は大きくならない。自主練習が仲間を引き止めた。生涯スポーツの振興には、体が不自由な人を車に乗せて連れてくるくらいの情熱が必要。クラブ頼りではなく自ら市民に加入を呼びかけている。

太極拳教室 豊島 毅



11年前、富山に引っ越してきたら子供と一緒にスポーツを楽しむ環境がなかった。ニーズを見つけた私が教室を作ろうと思った。女性が子供を連れてスポーツをすると「遊んでいる」と偏見を受けたが今や子育てサポートは世間の常識になった。お金をいただくからにはお客様に夢を与える使命がある。スタッフのスキルアップが大切と心得ている。

オカヘルスアップ主宰 大家 三穂



子供たちに対する指導は技術力だけではだめで、人間教育が伴わなければならないと経験上ははっきり申し上げることができる。

行政とのタイアップは必要だが、フラットを立ち上げたときは行政を頼らないことをコンセプトにしたはず。この視点を外さないことが大切だ。

経営理念と同時に指導理念が大切。この教室に入ったら、このような成果が出ますという目標や狙いを市民に示す必要がある。

団塊の世代との付き合いは大切。納得したら動くが逆に納得しないと動かない世代。一挙に理解を得ることは不可能。クラブから出向いて一人の十分な理解者をつくる事が、第一歩である。

講師 吉崎 壬卿

